

新発田市 令和3年度 第2回定例記者会見

1 日 時 令和3年5月7日(金)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

- 新型コロナウイルスワクチンの高齢者に対する接種申込について
- 市内事業所を対象とした PCR 検査の実施
- 結婚新生活支援補助金の新設
- 健康ウォーク手帳、20 万歩チャレンジ、ウォーキングチームチャレンジ
- 地場産商品のリブランディング事業の紹介
- ふとっパラプレミアムの販売、「食のアスパラ横丁、味めぐり with 新発田^{うし}牛」の開催
- 本物で学ぶ「縄文時代の暮らし」

あいさつ

- 沖縄が梅雨に入ったとの報道があった。新発田市は田植えで田に水を張った状態であるが、この時期が一番新発田らしさ、風情の現れる時期だと思う。地形的に見て、この市街地は溝口秀勝公が城を構えた時から、いざというときは加治川の堤防を切り崩し、水を入れて籠城をするというまちであったので、当時は相当の沼地であったと思う。その沼地を干拓して現在の形にしたので、国道 7 号線と田んぼの高低差がほとんどない。コロナ禍で飛行機に乗る機会がないかもしれないが、この時期に上空から見ていただくと湖面に島が浮かんだような印象を受けるので是非ご覧いただきたい。飛行機に乗らなくても新聞社はドローンを持っていると思うので、この時期の新発田を上空から撮影していただくと、自然のバリアフリーのまちだということを皆さんに紹介できると思う。

○コロナがまだまだ猛威を振るっている。国では今月末まで宣言を延長すると聞いた。今日の新聞では、9日には県が時短を解除する、あるいは警報の解除も考えているということである。これを受けて我々はブレーキを外すということになる。いつでもアクセルが踏めるような状態で待機していたので、これからどのように踏んでいくのかが大きな課題である。ただし、警報は解除するが、国のGoToキャンペーン、県の使っ得キャンペーンについてはどうするか決定していない。できれば警報解除と同時に、使っ得キャンペーンと一緒にアクセルを踏みたいと思っている。ここまで来ると県民のマインドが非常に冷えているのではないかとすることがあり、新発田市だけのキャンペーンだけではどうしても弱い。国、県と一緒にキャンペーンを張らないと、なかなか冷えたマインドを呼び起こすことができないので、県とその部分を調整したいと考えている。

○4月23日に市民の皆さんにコロナ対策ということでチラシを配布させていただいた。昨日一人の感染者が発生し、今日も感染者の発表があると思うが、クラスターの発生は無いようであり、感染された皆さんも市中感染ではなく、感染経路が把握できる状態である。この状態のまま収束を迎えたい。ワクチンを一日も早く接種し、その効果によって困難に打ち勝っていきたいと思っている。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、新型コロナウイルスワクチンの高齢者に対する接種申込についてです。

○昨日、5月6日から、75歳以上の方を対象とした、ワクチン接種の予約の受付を開始いたしました。他団体の事例で、電話とインターネット申込を併用したところ、重複予約が多数発生したということもあり、当市は高齢者につきましては電話のみとしております。

○初日ということもあり、電話がつながりにくい状況も発生しましたが、窓口で予約希望の市民が殺到するようなことはありませんでした。

○昨日から5月12日(水)までの平日5日間は電話受付を18時まで延長することや、5月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)は土日でも予約を受け付けることで対応してまいります。

○ワクチン接種を希望する高齢者に対しては、7 月中に接種を終えるよう事務を進めています。既に、発送済みの接種日程では、8 月中旬までの完了予定としておりましたが、県や国と一丸となつての取組みとするため、ワクチンチームには 7 月末の完了を厳命いたしました。会場、医療人材など、医師会の皆様をはじめ、県と連携して、7 月末の完了を実現したいと考えております。

○様々な場面で、市民の皆様や関係団体の皆さんから協力をいただいております。それにお応えするためにも、安心・安全でスムーズな予約や接種会場の運営をしていかなければなりません。そのためには、ワクチンチームだけでなく、全ての部署の市役所職員の総力を挙げて、7 月末の接種完了に向けて臨んでまいります。

次に、市内事業所を対象とした PCR 検査の実施について

○新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっていますが、64 歳以下の、いわゆる現役世代への接種にはまだしばらく時間がかかりそうです。

○とはいえ、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置となっていない地域においては、企業活動、経済活動は可能な限り円滑に行われなければなりません。

○万が一、もしかして、という事業者の皆様の不安を払しょくするために、新発田市独自の取組として、希望する市内事業所の事業主、従業員を対象とした、無料の PCR 検査を実施します。

○唾液を採取する簡単な検査であり、2 日程度で結果が判明します。やむを得ず不特定多数の方たちと接触したり、遠距離間を移動したりする機会がある方たちにご利用いただくことで、安心して企業活動を営んでもらえるように思っています。

○個人の健康だけではなく、会社の健康にもしっかりと目を向けることで、事業主と従業員の健康と暮らしが守られます。こうしたことの積み重ねにより、新型コロナウイルスに打ち勝っていきたいと考えています。

次に、結婚新生活支援補助金の新設について

- 今年度からの新たな取組として、39歳以下で、夫婦の年間合計所得が400万円未満の方を対象に、住宅取得、賃貸住宅費用、引越費用などを最大で30万円補助する制度を開始しました。
- 結婚の障害に結婚資金や住居を挙げる方たちがたくさんおられるとの国の統計が出ております。経済的な負担を軽減し、結婚を希望する方の誰もが望みどおりに結婚できるようにと、制度を新たに開始するものであり、国の補助金も活用して実施するものです。
- 4月から申請を受け付けている団体は、県内では当市だけであり、結婚に踏み切れないでいる方たちに、少しでも早くその後押しができるよう始めたものであります。これから結婚をしようと考えている方たちには、ぜひこの制度を活用いただいて、当市に新居を構えていただければと思っております。
- 既に1組の方から申請があり、他にも3組の方からご相談をいただいているところであります。目標の30組に向けて、今後もPRを進めてまいります。

次に、健康ウォーク手帳、20万歩チャレンジ、ウォーキングチームチャレンジについて

- 市では、コロナ禍においても、ご家庭に閉じこもることなく、身体も心も元気になっていただくために、ウォーキングを勧めています。
- ウォーキングは有酸素運動のひとつで、誰もが気軽にできる運動であり、高血圧・糖尿病・心臓病などの生活習慣病の予防、改善に有効です。また、年齢とともに筋肉・骨・関節などに障害が生じ、日常生活に支障をきたす、いわゆるロコモティブシンドロームの予防としても効果があるものです。
- また、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための3つの密（密閉・密集・密接）を回避することも、ウォーキングであれば難しくありません。

○ただ、一番のネックが三日坊主です。せっかくの決心もそれが長続きしなければもったいない。そこで当市の取組として、3つの仕掛けを考えました。

○一つ目は「ウォーキング手帳」の配布です。毎日の歩数を記録するだけでなく、体重や血圧も記録することで、ウォーキングの成果、体調の変化を実感してもらえるようになっていきます。また、お薦めのウォーキングコースも紹介しています。市内各所を楽しみながら歩いてほしいと思います。

○二つ目は、「20万歩チャレンジ」の開催です。1か月で20万歩という具体的な目標を定め、皆さんに歩いていただこうと思います。1万歩を歩くには1時間半、距離では6キロから7キロとなります。毎日歩ける方は歩いていただき、お勤めでデスクワークが多い方などはお休みの日にしっかり歩いていただくなど、それぞれの生活リズムに合わせて取り組んでほしいと思います。あらかじめ市へ登録していただければ、実績に応じてスタンプを押していきます。記念品も準備していますので、是非チャレンジしてみてください。

○三つめは、「ウォーキングチームチャレンジ」の開催です。お一人でのチャレンジに自信がない方や、職場のコミュニケーションづくりなどにもウォーキングを活用していただくために、2人から5人のチームによるチャレンジを用意しています。この取組は大変好評で、昨年までは年2回の開催でしたが、今年度は3回の開催を計画しています。運動習慣のきっかけづくりとしてみてはいかがでしょうか。

次に、地場産商品のリブランディング事業の紹介について

○コロナ禍の影響で、消費者の行動様式、消費活動が劇的に変化しました。当市の地場産商品についても、売上が落ち込み、これまでの販売ルート、販売方法では先の見通しが厳しいという声が上がりました。

○食べればおいしい。中身は素晴らしいのに、売上につながらない。悩む事業者に対して、コロナ禍にある今、市が支援できることとして、商品改良に対する経費の助成を、国の地方創生推進交付金も活用して、令和2年度に行いました。

○リブランディングとは、一言でいうと「ブランディングをし直す」というものです。商

品が持つ価値を改めて見直し、新たな売り方で、これまで贈答用やお使い物として利用されてきた新発田のお菓子を、観光客へのお土産として、新たな顧客層にアピールするなど、戦略的に新たな販路を獲得していく取組です。

○新発田には、歴史と文化に裏打ちされた素晴らしい商品がたくさんあります。これらの商品を改良することで、「新発田にしかない商品・新発田に来なければ買うことができない商品づくり」をコンセプトに、事業者の皆さんと連携し、プロの力も借りながら、パッケージの見直しなどを行いました。

○ターゲットは、それぞれの企業が、商品の特徴を踏まえ、月岡温泉に観光に来る若い女性や、海外輸出向けなど様々であります。4月からいよいよ「寺町たまり駅」での先行販売が始まりました。是非手に取ってみてください。

○今後も、市内の事業者の皆さんと、このような商品改良に取り組み、商品数を増やしていきたいと考えております。

次に、ふとっパラプレミアムの販売、「食のアスパラ横丁、味めぐり with 新発田牛(うし)」の開催について

○当市が県内一の出荷量を誇るアスパラガスのシーズンとなりました。太い、甘い、柔らかいの3拍子が揃った「ふとっパラ」と、極太の「ふとっパラプレミアム」を是非味わってください。収穫時期が短く、今月末には終わってしまいますので、お早めをお願いします。

○また、このアスパラガスと、今回から新たに登場する新発田牛(うし)を使った、飲食店による創作料理のキャンペーンを今年も開催します。シャキシャキとした食感のアスパラガスと、上質な肉質を持つ新発田牛(うし)の相性は抜群だと胸を張ってお勧めします。

○今回は、昨年中止としましたスタンプラリーも復活します。異なる店舗のシールを3枚集めてご応募いただくと、抽選で新発田の地酒飲み比べセットなど豪華賞品が当たります。また、テイクアウトを充実させるなど、コロナ対策は万全にしたうえで実施しますが、ご利用いただく皆様もしっかりと感染対策を行ったうえで各

店舗へお越してください。

次に、本物で学ぶ「縄文時代の暮らし」について

- 子どもが学びを深めるための大切な要素に「本物に出会う、本物に触れる」ということがあります。体験から学ぶことは、テキストで学んだことより何十倍も大きな効果をもたらします。
- 「教育の充実」に取り組む本市として、この体験から学んでもらうことの一環として、市内で出土された本物の土器に小学生が直(じか)に触れる授業を実施しています。
- これまでも実施してきた取組ですが、子ども達が本物の縄文土器を直(じか)に触れると、「どうしてこんな形にしたのかな?」「土器って結構重いんだ。分厚いな。」など、思い思いの感想が出るそうです。
- また、探求心を持って、本物に出会い、体験することが、次への意欲へとつながるそうであり、小学生が初めて日本の歴史を学ぶ、その取り掛かりとしても、大変有意義なものだと聞いています。
- 子供たちに、数千年も昔からこの新発田に人々が住んでいたということに思いを馳せてもらい、自分たちもその新発田の歴史の中にいるんだという、「しばたの心」を継承する取組としてもとても大切な授業だと考えています。

本日お知らせする情報は以上になります。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。